

冬一裏

によろこび申けりわが在俗へざいぞくの時へとき世路へせいろ
をわしりて地獄へぢごくのすみかをたづね出仕へしゆつし

けうまんのほこりをよろこびて衣へころもの玉へたま

をしらず妻子へさいしのみつび珍寶へちんぼうのたくはへに

心ひかれて火宅へくはたくのすみかをいづる事

なし煩惱へぼんなうのくろききもあつくし

て名利へみやうりの家へいるの犬へいぬうてどもさらず因へめん

果へくはの白象へびやくざうはくらくして菩提へぼだい山の山の

鹿へしかまねけどもきたりがたしとめるを